

徳島県内でのツル類の安定した越冬環境づくり

吉野川でのツル類の飛来・生息箇所と想定される取組

吉野川の河川区域内では、ナベヅルが砂州や干潟をねぐらとして、また、農地や草地を採食場として利用した記録があります。これまでに飛来・生息が確認されている地区ごとに、ツル類が安定的に越冬できる環境の形成に向けて取組を進めていくことが望まれます。

希少種情報につき委員限り

堤内地でのツル類のねぐら環境の創出

ツル類が安定的に越冬できる環境の形成に向けて、堤内地においても田んぼやため池を活用し、ツル類のねぐら環境を創出していくことが望まれます。

■水田での冬期湛水によるねぐら環境の創出

高知県四万十市では、飛来するツル類の主要なねぐらである四万十川流域の砂州周辺での落ちアユ漁、狩猟等の影響により、越冬に至るツル類の個体数が少ない状態です。

そのため、四万十川の砂州をねぐらとして利用できなくなった場合の代替ねぐらを確認するために、2019年度から、堤内地の田んぼで冬期に水を張ってツル類のねぐら環境を創出する取組が行われています。

2021年11月には、冬期に水を張った田んぼを、ナベヅルがねぐらとして利用しました。



冬期に水を張ってデコイを置いた田んぼ
(高知県四万十市江ノ村)

■冬期のため池の水位調節によるねぐら環境の創出

愛媛県西予市では、県の改修事業と合わせて、ため池に浅場が整備されました。冬期にため池の水位調節を行い、水位を低い状態に保っています。このため池を、ツル類がねぐらとして利用しています。

水を利用しない非かんがい期に、ため池を落水または低水位管理することは、治水にもつながります。ツル類の好む水位までため池の水を下げることで、治水と合わせてツル類のねぐら環境を創出することができます。



水位調節しているため池
(愛媛県西予市宇和町)

堤内地でのツル類の採食環境の創出

ツル類が安定的に越冬できる環境の形成に向けて、徳島県内（特に河川周辺）の農地で、ツル類の採食環境の創出をさらに進めることが望まれます。

■落穂や二番穂を残す取組

小松島市・阿南市にまたがる太田川地域では、太田川地域保全協議会が、2019年から日本野鳥の会と連携して、稲刈り後の耕起の時期を調整するなど、ツル類の食物となる落穂や二番穂を残す取組が行われています。この取組は、多面的機能支払交付金の支援を受けています。



「太田川地域保全協議会」により二番穂が確保された農地で採食するナベヅル
（阿南市那賀川町）

[写真提供：日本野鳥の会徳島県支部 三宅武様]

■多面的機能支払交付金（農水省）による支援

【多面的機能支払交付金】

農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るために、地域共同で行う農地・農業用水等の地域資源の保全や農村環境の良好な保全に資する活動を支援

多面的機能支払交付金は、国が定めた活動内容に加えて、都道府県が独自に支援の対象とする活動内容を定めることができます。

徳島県では、2019年に県独自の指針として「活動組織間で連携し大型の鳥類（ツル・コウノトリ）を保護する取り組み」を設定しました。

内容

大型の鳥類（ツル・コウノトリ）が定期的に飛来しやすくするため、活動組織間で連携し、生物多様性保全計画の策定、餌となる生物の生息状況の把握、水田等を活用した生物を増加させる取組、また大型の鳥類への加害を防ぐ取組を実施すること。

要件

取組を実施する活動組織は、2組織以上で生物多様性保全計画を作成し、連携した取組を実施すること。



太田川地域保全協議会



ナベツル・コウノトリ 野鳥の集う水田を!!

当協議会は、小松島市、阿南市の2市にまたがる地域であります。地域資源の基礎的な保全活動・地域資源の質的向上を図る共同活動長寿命化活動はもとより、日本野鳥の会と連携し、野鳥が飛来する水田の取り組みを進めています。

11月15日(月) 当改良区のほ場にナベツル2羽が飛来しました
その後、17日に2羽・21日に8羽と飛来してくれています



冬の観察会 カメラ設置



生物調査



二番穂の確保(多くのほ場で協力して頂きました)



看板設置 (近寄らないで遠くより見守って)



ツル類の飛来・生息箇所と鳥獣保護区・特定猟具使用禁止区域

銃猟での発砲音によりツル類が飛去する事例が、今期も徳島県内で確認されています。ツル類の飛来・生息が確認されている箇所について、銃猟の自粛要請、鳥獣保護区や特定猟具使用禁止区域（銃器）への編入を検討していくことが望まれます。

希少種情報につき委員限り

希少種情報につき委員限り

希少種情報につき委員限り

希少種情報につき委員限り

希少種情報につき委員限り

希少種情報につき委員限り

ツル類を活かした地域・人づくり

ツル類のねぐら環境、採食環境を保全・再生していくとともに、ツル類を活かした地域・人づくりの取組も進めていくことが望まれます。

■農産物の価値の向上、ツル類を活かした物製品の開発

ツル類を活かした地域・人づくりの一つとして、農業者等と調整しながら、ツル類の安定した越冬環境づくりに寄与する方法で生産された農産物の価値を向上させ、販路を確保していくことが考えられます。

また、地域の事業者等と連携して、ツル類をモチーフに地域内の素材を加工した土産物等の物製品を開発することが考えられます。

■ツル類をテーマとした地域間交流

ツル類の分散を目指す鹿児島県出水市と新越冬地の形成を目指す高知県四万十市の地域間交流が進められています。

出水市立鶴荘学園と四万十市立東中筋小学校・東中筋中学校の児童生徒がそれぞれの地域の紹介とツル類の保全の取組を発表し、質疑応答するオンラインでの交流授業が行われました。

徳島県内の取組地域においても地域間交流を行うことで、互いの活動から刺激を受け、それぞれの活動が継続・発展することが期待されます。



「いのち育むたんぼ米」の認証ラベル
(小松島市生物多様性農業推進協議会)



丹頂ソフト
(北海道長沼町)



鶴荘学園と東中筋小学校・東中筋中学校の交流授業の様子